



病害虫情報 9月の予報

情報提供：神奈川県農業技術センター病害虫防除部

平成 29 年 8 月 31 日

神奈川県農業共済組合

病害虫情報(第6号)9月予報

平成29年8月31日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463 - 58 - 0333
インターネット <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>

【内容】

- I 9月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例 1
【水稲、カンキツ、ナシ、ブドウ、カキ、チャ、抑制トマト、抑制キュウリ、促成イチゴ、ナス、ネギ、キャベツ、ダイコン】
- II 9月の気象予報と病害虫発生予想の根拠 10

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。

※ 農薬に関する情報は、平成29年8月9日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 9月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例

【水稲】

生育: 平年並(生産技術部: はるみ)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
ウンカ類 トビイロウンカ	並	△	ダントツ水溶剤 [7日, 3回] 4,000倍 アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [7日, 3回]
斑点米カメムシ類	やや多	○	ウンカ類: 3,000倍 カメムシ類: 2,000倍 等 ◆ トビイロウンカは、水田をよく観察し、飛来が認められたら直ちに防除する。 ◆ 斑点米カメムシ類による登熟期までの加害が、斑点米被害の原因となる。
縞葉枯病 (ひこばえ、水田内雑草、水田周辺雑草)	—	—	◆ 媒介虫であるヒメトビウンカがイネ縞葉枯病ウイルスを保毒する機会を減らすために、収穫後は次の対策を実施する。 ①「ひこばえ」や水田内雑草をすき込む。 ②畦畔や休耕田の除草を徹底する。

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(平成29年・第6号・9月) …………… 神奈川県農業技術センター

【カンキツ】 生育: やや早(足柄地区事務所: 普通温州)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒点病	やや少	○	(予) ジマンダイセン水和剤 又は ペンコゼブ水和剤 みかん: [30日, 4回] 400~800倍 みかんを除くかんきつ: [90日, 4回] 600~800倍 等 ◆ 8月下旬に防除した場合は不要。
かいよう病 (中晩柑類)	並	○	(予) コサイド3000 [生育期, -] 2,000倍 + クレフノン [-, -] 200倍 (予・治) カスミンボルドー 又は カッパーシン水和剤 + クレフノン [-, -] 200倍 みかん: [7日, 5回] 1,000倍、 みかんを除くかんきつ: [45日, 5回] 1,000倍 等 ◆ 傷口から感染するため、台風通過が予想される場合には予防散布を行う。 ◆ 8月下旬に防除した場合は不要。
カメムシ類	やや少	△	アルバリン又はスタークル顆粒水溶剤 [前日, 3回] 2,000倍 等 ◆ 新世代成虫の発生量はやや少ないと予想される。ただし、山際の園では飛来の可能性があるので注意する。
チャノキイロ アザミウマ	やや少	○	キラップフロアブル [21日, 2回] 1,000~2,000倍 等 ◆ 虫が小さく発見しにくいので、果頂部や果こう部の加害痕に注意。 ◆ 8月下旬に防除した場合は不要。
ミカンハダニ	やや多	○	ダニエモンフロアブル [7日, 1回] 4,000~6,000倍 カネマイトフロアブル [7日, 1回] 1,000~1,500倍 等
ミカンサビダニ	並	○	◆ 8月下旬に防除した場合は不要。

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▶ QoI剤(ストロビー、ファンタジスタ)
 - QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
 - 単剤あるいはSDHI剤との混合剤(ナリア)の場合: 1年1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合: 1年2回

病害虫情報

(平成29年・第6号・9月)

神奈川県農業技術センター

【ナシ】

生育: やや早(生産技術部: 豊水)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒星病	やや多	○	(予) オキシラン水和剤 [3日, 9回] 500~600倍 (予・治) フルーツセイバー [前日, 3回] 1,500~3,000倍 等 ◆ 秋の降雨により、来年の芽に感染し越冬するので、発病園では必ず9月下旬~10月上旬に防除を行う。
うどんこ病	やや多	○	(予・治) オンリーワンフロアブル [前日, 3回] 2,000倍 (予・治) フルーツセイバー [前日, 3回] 1,500~3,000倍 等
カメムシ類	やや少	△	ダントツ水溶剤 [前日, 3回] 2,000~4,000倍 等 ◆ 新世代成虫の発生量はやや少ないと予想される。ただし、山際の園では飛来の可能性があるので注意する。

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫* 日前まで」を「* 日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター10、ストロビー、ファンタジスタ)
QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
→ 単剤あるいはSDHI剤他との混用の場合: 1年2回
 - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
→ 単剤あるいはQoI剤他との混用の場合: 1年2回

【ブドウ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
べと病	やや少	○	(予) Zボルドー [-, -] 500~800倍 + クレフノン [-, -] 100倍 等 ◆ り病葉は園外に持ち出し埋める。

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
[使用時期] 「収穫* 日前まで」を「* 日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(フリント、アミスター10、ストロビー、ファンタジスタ)
QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
→ 単剤あるいはSDHI剤他との混用の場合: 1年1回
→ SDHI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤(ホライズン)の場合: 1年2回
 - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
→ 単剤あるいはQoI剤との混用の場合: 1年1回
→ QoI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤の場合: 1年2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(レーバスフロアブル)の場合: 1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(フェステイバルM水和剤等)の場合: 1作2回

病害虫情報

(平成29年・第6号・9月) …………… 神奈川県農業技術センター

【カキ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
カメムシ類	やや少	△	モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000～4,000倍 テルスターフロアブル [3日,2回] 3,000～6,000倍 等 ◆ 新世代成虫の発生量はやや少ないと予想される。ただし、山際の園では飛来の可能性があるので注意する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【チャ】

生育:並(北相地区事務所:やぶきた)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
炭疽病	やや少	○	(予) フロンサイドSC [14日,1回] 2,000倍 (予・治) インダーフロアブル [7日,2回]
もち病	やや少	○	炭疽病:5,000～8,000倍、もち病:5,000倍 等 ◆ 常発園では、必ず防除。
チャノキイロ アザミウマ	並	○	カスケード乳剤 [7日,2回]4,000倍 スピノエースフロアブル [7日,2回]
チャノミドリ ヒメヨコバイ	やや多	○	チャノキイロアザミウマ、チャノコカクモンハマキ、 チャノホソガ:2,000～4,000倍、 チャハマキ:4,000倍
ハマキムシ類 チャハマキ チャノコカクモンハマキ	多	○	コテツフロアブル [7日,2回] チャノキイロアザミウマ、チャノミドリヒメヨコバイ、 チャノコカクモンハマキ:2,000倍 等
チャノホソガ	やや少	○	
カンザワハダニ	並	○	コテツフロアブル [7日,2回]2,000倍 等 ◆ カンザワハダニは、発生に十分注意し、早めに防除。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー、ファンタジスタ)
 - 単剤の場合:1年1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

病害虫情報

(平成29年・第6号・9月) …………… 神奈川県農業技術センター

【抑制トマト】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント												
葉かび病	—	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, ー] 葉かび病: 1,000倍、うどんこ病: 1,000～2,000倍 (予) ダコニール1000 [前日, 4回] 1,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日, 3回] 2,000～4,000倍												
すすかび病	—	○													
うどんこ病	—	○													
コナジラミ類 タバココナジラミ	やや多	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日, 2回] コナジラミ類: 2,000～3,000倍 スピノエース顆粒水和剤 [前日, 2回] アザミウマ類: 5,000倍 モベントフロアブル [前日, 3回] 2,000倍 チェス顆粒水和剤 [前日, 3回] コナジラミ類、アブラムシ類: 5,000倍 ウララDF [前日, 3回] アブラムシ類: 2,000～4,000倍 コナジラミ類、ミカンキイロアザミウマ: 2,000倍 エコピタ液剤 [前日, ー] コナジラミ類: 100～200倍、アブラムシ類: 100倍												
アブラムシ類	やや多	○													
アザミウマ類	—	○	◆ 施設が多湿にならないよう管理する。 ◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。 ◆ 施設内外の除草を徹底する。 ◆ 0.4mm目合い以下の防虫ネットを、育苗施設の開口部に展張するか、育苗ベットにトンネル掛けする。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)	アザミウマ類	TSWV(トマト黄化えそ病)		CSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)	アザミウマ類														
TSWV(トマト黄化えそ病)															
CSNV(トマト茎えそ病)															

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫* 日前まで」を「* 日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合: 1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合: 1作2回
- ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合: 1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合: 1作2回

病害虫情報

(平成29年・第6号・9月) …………… 神奈川県農業技術センター

【抑制キュウリ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント												
べと病	—	○	(予) ダコニール1000 [前日,8回] 1,000倍 (予) ジマンダイセン水和剤又はペンコゼブ水和剤 [前日,3回] 褐斑病:600倍、べと病:600~800倍 (予) インプレッションクリア [発病前~発病初期,-] うどんこ病:1,000~2,000倍 (予・治) ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日,5回] うどんこ病、褐斑病:2,000倍												
うどんこ病	—	○													
褐斑病	—	○													
			◆ 多湿状態で施設を閉め切ると病気が蔓延するので、午後は換気に努める。												
アブラムシ類	やや多	○	ハチハチ乳剤 [前日,2回] 1,000~2,000倍 スピノエース顆粒水和剤 [前日,2回] アザミウマ類:5,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回] アザミウマ類、アブラムシ類:2,000~4,000倍、 コナジラミ類:2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍												
コナジラミ類	—	○													
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ	やや多	○													
			◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要。												
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>CCYV(退緑黄化病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>BPYV(キュウリ黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>MYSV(キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>WSMoV(キュウリ灰白色斑紋病(仮称))</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)		MYSV(キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類	WSMoV(キュウリ灰白色斑紋病(仮称))	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類														
BPYV(キュウリ黄化病)															
MYSV(キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類														
WSMoV(キュウリ灰白色斑紋病(仮称))															
			◆ 育苗施設、本ぼ内外の雑草防除を徹底する。												

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合:1作2回

病害虫情報

(平成29年・第6号・9月) …………… 神奈川県農業技術センター

【促成イチゴ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
炭疽病	やや多	○	【育苗期:散布】 (予) タフパール [育苗期～前日, -] 2,000～4,000倍 (予・治) サンリット水和剤 [前日, 3回] 2,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [育苗期(定植前), 5回] 1,000倍 (予・治) ファンタジスタ顆粒水和剤 [前日, 3回] 2,000倍 【育苗期:土壌灌注】 (予) フロンサイドSC [育苗期, 1回] 1,000倍、50ml/株 等 ◆ 発病した株の治療効果は期待できないので、発病株とその隣接株は速やかに処分する。 ◆ タフパールは、有効成分が植物体に定着するために、散布後、半日程度湿度を保つ必要があるので、夕方散布するとよい。
うどんこ病	多	○	【育苗期】 (予) タフパール [発病前～発病初期, -] 2,000～4,000倍 (予・治) サンリット水和剤 [前日, 3回] 2,000～4,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [育苗期(定植前), 5回] 1,000倍 【定植後】 (予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, -] 1,000～2,000倍 (予) サンヨール [前日, 6回] 500～1,000倍 (治) カリグリーン [前日, -] 800～1,000倍 等 ◆ 高温期には、白い粉状の病斑が見られず、赤紫色の壊死斑となることも多いが、病原菌は残存しているので、壊死斑も含めて発病葉をできるかぎり除去し、防除を徹底する。 ◆ タフパールは、有効成分が植物体に定着するために、散布後、半日程度湿度を保つ必要があるので、夕方散布するとよい。
アブラムシ類	やや多	○	モベントフロアブル[育苗期後半, 1回] 灌注:500倍、25～50ml/株 モスピラン粒剤 [定植時, 1回] 植穴土壌混和:0.5～1g/株 又は 株元散布:0.5g/株 等 ◆ モベントは天敵(カブリダニ類)に対して45日程度影響がある。
ハスモンヨトウ	やや多	○	コテツフロアブル [前日, 2回] 2,000倍 アニキ乳剤 [前日, 3回] 2,000倍 等
ハダニ類	やや多	○	モベントフロアブル[育苗期後半, 1回] 灌注:500倍、50ml/株 コテツフロアブル [前日, 2回] 2,000倍 等 ◆ 本ぼに持ち込まないよう防除を徹底する。 ◆ モベントは天敵(カブリダニ類)に対して45日程度影響がある。
コガネムシ類幼虫	—	△	ダイアジノンSLゾル [ポット育苗時, 1回] 育苗ポット灌注:500倍(1,000L/10a) [定植前(本圃), 1回] 全面土壌混和:25倍(100L/10a) 等

【防除要否】 ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 【使用時期】 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

タフパールとの散布間隔 (メーカー技術資料より抜粋)

- ▶ サンリット、サンヨール、カリグリーン:3日以上、ベルクート(水和剤):10日以上、コテツ、ダイアジノン(乳剤)、ファンタジスタ:混用事例あり

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー、ファンタジスタ)
 - 単剤の場合:1作1回
 - その他の殺菌剤との混用もしくは混合剤(ファンベル)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤の場合:1作1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1作2回

病害虫情報

(平成29年・第6号・9月) …………… 神奈川県農業技術センター

【ナス】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	並	○	(予・治) ベルクートフロアブル [前日,3回] 2,000倍 (予・治) アミスターオプティフロアブル [前日,4回] 1,000倍 等 ☞ アミスターオプティは混合剤。総使用回数に注意する。 (予) サンクリスタル乳剤 [前日,-] 300~600倍 ◆ 台風通過後は茎葉の傷みや多湿により病害の発生が助長されるため、天候が回復したら速やかに殺菌剤を散布する。
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ ミカンキイロ アザミウマ	やや多 並	○ ○	アフーム乳剤 [前日,2回] 2,000倍 コテツフロアブル [前日,4回] 2,000倍 等
オオタバコガ	並	○	アフーム乳剤 [前日,2回] 2,000倍 コテツフロアブル [前日,4回] 2,000倍 トルネードエースDF [前日,2回] 2,000倍 等
ハダニ類	並	○	コテツフロアブル [前日,4回] 2,000倍 マイトコーネフロアブル [前日,1回] ハダニ類:1,000倍
チャノホコリダニ	やや多	○	サンクリスタル乳剤 [前日,-] 300~600倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

【ネギ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
さび病	—	○	(予) ジマンダイセン水和剤 又は ペンコゼブ水和剤 [14日,3回] 600倍
黒斑病	—	○	(予) ダコニール1000 [14日,3回] 1,000倍 (予・治) ベルクート水和剤 [30日,3回] 2,000倍 等 ◆ 台風通過後は茎葉の傷みや多湿により病害の発生が助長されるため、天候が回復したら速やかに殺菌剤を散布する。 ◆ さび病は、肥料不足や窒素過多にすると発病しやすいので、適切な肥培管理を行う。 ◆ 発生初期から定期的に防除する。 ◆ 薬剤散布の際は、固着性のよい展着剤を必ず加用する。
ネギアザミウマ	並	○	ダントツ粒剤 [3日,4回] 株元散布:ネギアザミウマ:3~6kg/10a モスピラン顆粒水溶剤 [7日,3回] アザミウマ類:2,000倍
シロイチモジヨトウ	やや多	○	アニキ乳剤 [3日,3回] ネギアザミウマ:1,000倍 シロイチモジヨトウ:1,000~2,000倍 ファルコンフロアブル [前日,2回] シロイチモジヨトウ:4,000倍 等 ◆ 薬剤散布の際は、固着性のよい展着剤を必ず加用する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(平成29年・第6号・9月) …………… 神奈川県農業技術センター

【キャベツ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
べと病	—	○	(予) Zボルドー [—, —] 500倍 (予・治) リドミルゴールドMZ [30日, 3回] 1,000倍 等 ☞ リドミルゴールドMZは混合剤。総使用回数に注意する。 ◆ 台風通過後は茎葉の傷みや多湿により病害の発生が助長されるため、天候が回復したら速やかに殺菌剤を散布する。
ネギアザミウマ	—	○	①【苗地床灌注】 ジュリボフロアブル [は種時～育苗期後半, 1回:灌注] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ネギアザミウマ :1000倍 (苗地床1㎡あたり2L) ②【セル成型育苗 又は ペーパーポット育苗灌注】 ジュリボフロアブル [育苗期後半～定植当日, 1回:灌注] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ネギアザミウマ:200倍 (セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊あたり0.5L) ベリマークSC [育苗期後半～定植当日, 1回:灌注] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、アザミウマ類:400倍 (セル成型育苗トレイ1箱又はペーパーポット1冊あたり0.5L) ☞ ジュリボフロアブルは混合剤。総使用回数に注意する。 ③【育苗期後半又は定植時:粒剤施用】 ダントツ粒剤 ハイマダラノメイガ:[育苗期後半, 1回:株元処理] 0.5g/株 又は[定植時, 1回:植穴処理土壌混和]1～2g/ ネギアザミウマ:[育苗期後半, 1回:株元処理] 0.5g/株 ④【育苗期～定植後:散布】 フローバックDF [発生初期(但し、前日), —] ハスモンヨトウ、オオタバコガ、ハイマダラノメイガ:1,000倍 ディアナSC [前日, 2回]2,500～5,000倍 等
ハスモンヨトウ	やや多	○	
オオタバコガ	並	○	
ハイマダラノメイガ (ダイコン シンクイムシ)	多	○	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【ダイコン】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
アブラムシ類	やや多	○	【は種時:粒剤施用】 アクタラ粒剤5 [は種時, 1回:作条混和] 4kg/10a 【発芽後:散布】 ダントツ水溶剤 [7日, 2回]2,000～4,000倍 等 ◆ アブラムシ類は、CMV等(モザイク病)を媒介。
ハイマダラノメイガ (ダイコン シンクイムシ)	多	○	アニキ乳剤 [3日, 3回]1,000～2,000倍 アクセルフロアブル [7日, 2回]:1,000～2,000倍 プレバゾンフロアブル5 [前日, 3回]:2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(平成29年・第6号・9月)

神奈川県農業技術センター

Ⅱ 9月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

(1) 9月の気象予報(気象庁 地球環境・海洋部8月25日発表3か月予報)

〈天 気〉

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並み	高い(多い)
気 温	20%	30%	50%
降 水 量	30%	40%	30%
日照時間*	40%	40%	20%

*8月24日発表1か月予報による。

(2) 9月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
水稲	いもち病 (穂いもち)	少	並	1) 巡回調査では、葉いもちの発病は認められず、発生は平年よりやや少ない。(－) 2) 巡回調査では、穂いもちの発病は認められず、発生は平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または少ない予報。(＋)
	紋枯病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生は平年並。(±) 2) 生育診断ほにおける生育は、草丈は平年並、分けつ数は平年並からやや多く、葉色は平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並、日照時間は平年並または少ない予報。(＋)
	トビイロウンカ	少	並	1) 巡回調査では寄生は認められず、発生は平年並。(±) 2) 予察灯における誘殺は認められず、平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	斑点米カメムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 予察灯における誘殺数は、平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
カンキツ	黒点病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	かいよう病 (中晩柑類)	少	並	1) 巡回調査では、果実での発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、果実での発生が平年よりやや少なく(－)、夏葉ではやや多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

病害虫情報

(平成29年・第6号・9月)

…… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カンキツ	チャノキイロアザミウマ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)の粘着トラップでは、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ミカンハダニ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年よりやや多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ミカンサビダニ	少	並	1) 巡回調査では、被害は見られず発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
ナシ	黒星病	少	やや多	1) 巡回調査では、徒長枝での発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 巡回調査では、短果枝での発生が7年平均よりやや多い。(＋) 3) 県予察ほ(上吉沢)では、発病が見られず発生は平年並。(±) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	うどんこ病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年よりやや多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
ブドウ	べと病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
カキ	うどんこ病	少	並	1) 7月の巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
果樹全般	カメムシ類	少	やや少	1) ナシの巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、県予察ほ(根府川)、南足柄、伊勢原で平年より少ない。(－) 3) 予察灯へのチャバネアオカメムシの誘殺数は、県予察ほ(上吉沢)、伊勢原で平年並、県予察ほ(根府川)、山北では少ない。(－) 4) 予察灯へのクサギカメムシの誘殺数は、県予察ほ(上吉沢)、伊勢原、山北ではやや多く、県予察ほ(根府川)では平年よりやや少ない。(±) 5) ヒノキ球果上のカメムシ寄生数は平年より少ない。(－) 6) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

病害虫情報

(平成29年・第6号・9月)

…… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
チャ	炭疽病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が見られず平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	もち病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が見られず平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	チャノキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年よりやや多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	チャノミドリヒメヨコバイ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、平年より多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ハマキムシ類	少	多	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) フェロモントラップの誘殺数は、山北、県予察ほ(寸沢嵐)ともに平年より多い(＋)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	チャノホソガ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 予察灯(山北)の誘殺数は、平年より少ない。(－) 3) フェロモントラップの誘殺数は、山北、県予察ほ(寸沢嵐)ともに平年より少ない。(－) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	カンザワハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が見られず平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

病害虫情報

(平成29年・第6号・9月)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
抑制トマト	タバココナジラミ	少	やや多	1) 8月のナス巡回調査では、タバココナジラミの発生が平年よりやや多い。(+) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
抑制キュウリ	ミナミキイロアザミウマ	少	やや多	1) ナスの巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
促成イチゴ	炭疽病	少	やや多	1) 巡回調査では、育苗期の発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 8月の降水量は平年より多く、日照時間は平年より少なかった。(+) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	うどんこ病	少	多	1) 巡回調査では、育苗期の発生が過去7年の平均より多い。(+) 2) 8月の降水量は平年より多く、日照時間は平年より少なかった。(+) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ハダニ類	少	やや多	1) 巡回調査では、育苗期の発生が過去6年の平均よりやや多い。(+) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
ナス	うどんこ病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	少 少	やや多 並	1) 巡回調査では、ミナミキイロアザミウマの発生が平年並(±)、ミカンキイロアザミウマの発生が平年よりやや少ない(－)。 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	ハダニ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	チャノホコリダニ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
ネギ	ネギアザミウマ	多	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	シロイチモジヨトウ	－	やや多	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、横浜、伊勢原ともに平年より多い(+) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (+): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報

(平成29年・第6号・9月)

…… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
アブラナ科 野菜	コナガ	－	並	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、横浜、伊勢原ともに平年並。(±) 2) 県予察ほフェロモントラップへの誘殺数は、(上吉沢)で平年並(±)、(三浦)で平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ハイマダラノメイガ	－	多	1) 県予察ほ(上吉沢)でのクレオメシュートのハイマダラノメイガ寄生率が高い。(＋) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
野菜全般	アブラムシ類	－	やや多	1) ナスの巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への誘殺数は、平年よりやや多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ハスモンヨトウ	－	やや多	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、伊勢原で平年よりやや少なく(－)、横浜では平年よりやや多い。(＋) 2) 県予察ほフェロモントラップへの誘殺数は、(上吉沢)で平年並(±)、(三浦)で平年よりやや多い。(＋) 3) ナスの巡回調査では、被害が見られず発生が平年よりやや少ない。(－) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	オオタバコガ	－	並	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、伊勢原で平年より少なく(－)、横浜では平年よりやや多い。(＋) 2) 県予察ほフェロモントラップへの誘殺数は、(上吉沢、三浦)ともに平年並。(±) 3) ナスの巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因